

研究課題名	四肢外傷に関する実態調査研究【多施設共同研究】
当院での実施期間	倫理委員会承認日 から 2024年3月31日 まで
研究の概要・目的・背景・意義	<p>四肢の開放骨折や切断などの四肢外傷は緊急での対応が必要であり、軟部損傷への対応を含め治療に難渋することで知られています。重度開放骨折などは創外固定による局所の安定と早期の遊離組織移植による軟部の被覆と骨折内固定による、“fix and lap”と呼ばれる治療が行われ良好な成績が得られていますが、その発生頻度やその原因、治療経過並びに合併症などについては報告がまばなく、疫学的な詳細は明らかとなっていないため、当院も含めた複数の施設での四肢外傷に関する調査を継続的に行い、四肢外傷の概要を明らかにすることを目的としています。</p> <p>また、阪神・淡路大震災で注目を浴びたクラッシュ症候群など、自然災害が頻発する日本においては、将来、多数の四肢切断/重度外傷治療患者の発生する可能性は否定できなく、これらの患者の治療が速やかに行えるような医療体制を構築する必要があります。本研究により、四肢外傷・開放骨折の概要が得られ、今後の治療の改善につながる知見が得られると考えています。</p>
研究の対象	2017年1月から、現在まで当院において四肢開放骨折、重度四肢外傷（開放骨折・四肢切断を含む）の治療を受けた患者さん。
研究に用いる試料・情報の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・患者基本情報（年齢・性別・既往歴）、病歴（手術歴） ・身体所見（Gustilo分類）、理学所見（関節可動域・握力） ・放射線画像所見（単純X線像・CT・MRI） ・予後（転院の有無、患肢温存/切断）
研究方法	電子カルテより、患者さんの治療前、治療中、治療後の検査結果等のデータを収集し、分析をします。（観察研究）
研究における医学倫理的配慮	<p>本研究データからは、患者さん本人を直接特定できる情報（お名前など）を削除して匿名化しますので、患者さんを特定することはできません。</p> <p>なお、この研究成果については、学会や学術雑誌などで発表する場合がありますが、その場合でも、上記のとおり匿名化しておりますので、患者さんのプライバシーは守られ、また、本研究により得られたデータが他の目的に使用されることもありません。</p>
研究組織	名古屋大学大学院医学系研究科手の外科
研究責任者	名古屋大学大学院医学系研究科四肢外傷寄附講座 寄附講座准教授 建部 将広
問い合わせ先	（研究事務局） 名古屋大学大学院医学系研究科手の外科 電話 052-744-2957 FAX052-744-2964
当院情報管理者・当院担当者	公立西知多総合病院 整形外科 部長 浦野 秀樹 電話 0562-33-5500